

## 商業科「ビジネス基礎」シラバス

### 教科担当者からのメッセージ

商業科に入学して、みなさんはどのような内容を勉強するのが不安があると思います。その不安を取り除き、商業についての学習の指針を示すのが科目「ビジネス基礎」です。

高校の商業には、流通ビジネス、国際経済、簿記会計、経営情報の四つの分野があります。この科目は、みなさんがこれから学ぶ四つの分野の基礎的な科目として位置付けられています。商業を学ぶ目的や学び方、卒業後の進路などについてのガイダンスを行い、商業についての理解を深め、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる科目です。

また、簡単なビジネス英会話に慣れ親しむために、毎時間5分程度、英会話を取り入れて授業を行います。

### 授業を受ける心構え

ビジネスに対する心構えやマナーを身につけるために、課題意識をもって積極的に授業に参加しましょう。まず、あいさつや言葉づかい、時間や約束を守るといった基本的なことから心掛けましょう。

また、国際化に対応するためにも語学力が必要です。英語が苦手な人も嫌がらずに積極的に授業に参加し、コミュニケーション能力を高めましょう。

## 1 カリキュラムの位置付け

単位数	学年	学 科	区 分
3	1	商業科全学科	<b>必修</b> 選択必修 選択

## 2 こんな教材で学習します

教科書	ビジネス基礎( 出版)
補助教材	ビジネス基礎 ワークブック( 出版)

## 3 このような力を身につけます

- ・ 経済社会の動きに興味・関心を持ち、自分自身の将来や進路の実現の第一歩を踏み出すための基礎的な基本的な能力を養います。
- ・ レポートの書き方やプレゼンテーションの技法を身につけます。
- ・ ビジネスの基礎的・基本的な事象が分かるようになり、商業や経済関係の新聞記事やテレビのニュースなどが理解でき、ビジネスの動向に対する視野や考え方が広がります。
- ・ 電卓やパソコン等を使用し、ビジネスに関する計算能力を高めます。
- ・ 簡単な英会話に親しみながら、円滑なコミュニケーション能力を身につけます。
- ・ 経済社会の一員として必要とされる望ましい人間関係、社会性及び倫理観など豊かな人間性を身につけます。

## 4 評価と成績について

評価は次の4つの面から行います。

評価のポイント	
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスの諸活動に広く関心を持ち、その意義や役割の理解及び諸問題の探求を目指して、自主的・主体的に学習に取り組んでいるか。</li> <li>・ 経済社会の一員としての望ましい心構えや態度を身につけているか。</li> <li>・ 自己実現に向けて意欲的に取り組んでいるか。</li> </ul>
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスの諸活動に関する諸問題の解決を目指し、自ら思考を深めようとしているか。</li> <li>・ 学習した基礎的・基本的な知識と技術を活用し、ビジネスに関する諸問題に対して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけているか。</li> </ul>
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスに関する基礎的・基本的な技術と望ましい心構えを身につけているか。</li> <li>・ 書籍やインターネット等を活用し情報を収集し、自主的・主体的に情報を取捨選択し、活用できる技能を身につけているか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、経済社会におけるビジネスの意義や役割を理解しているか。</li> <li>・ コミュニケーションの方法やその心構え及び日常よく用いられる英会話に関する基礎的・基本的な知識を身につけているか。</li> </ul>

以下の評価方法によって、総合的に評価し成績とします。

評価方法	
観察	授業への取り組む姿勢・態度、活動状況を観察します。
ノート	板書事項をきちんと記入することはもとより、重要な用語等を自主的に記入し、わかりやすいように整理・工夫しているかを確認します。(年6回程度)
発問・発表	授業中の発問に対し、自らの考えを整理して発表できているかを確認します。また、発表会(年3回程度)を実施し、課題に対する自己の考えをどう表現しているかについて、教員の評価以外に「生徒の自己評価」、「生徒の相互評価」を取り入れます。  【生徒の自己評価】 グループの討議やプレゼンテーション等の活動について、討議に臨む姿勢やその活動内容、発表者としての印象や自身で設定した評価ポイントについて自らが評価を行います。 【生徒の相互評価】 プレゼンテーション等の活動について、聞き手側の生徒が客観的な評価を行います。
ペーパーテスト	中間・期末テストなどの定期テストや小テスト(月1回程度)を実施します。
作品	作品や制作物を作製し提出してもらいます。(年3回程度)
レポート	単元のまとめやテーマごとに定期的または随時、レポートを提出してもらいます。(年3回程度)

## 5 学習計画

### 第1学期

月	学習内容	学習のねらい	主な活動や課題、テスト等
4	1 商業のガイダンス (1) 商業を学ぶ目的と学び方 ア ビジネスの基礎・基本と学ぶ目標  (2) 商業の学習分野 ア 学習分野と内容 イ 将来のスペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの基礎・基本の具体的内容を学ぶことにより、より実践的な能力と態度を身につけます。</li> <li>これから学習する商業科目の内容について理解を深めます。</li> <li>商業科目の主体的な学習方法や生涯学習の必要性を理解します。</li> <li>商業の学習分野と資格取得との関係や卒業後の進路について考察していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート(私の履歴書)の作成</li> <li>ワークシート(人生設計)の作成</li> <li>インターネットを活用した進路学習</li> </ul>
5	2 経済生活とビジネス (1) ビジネスの役割 ア 家計・企業・政府 イ 役割と事例  (2) ビジネスの発展 ア ビジネスの発展と経済環境の変化 イ 新たなビジネスへの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済を支えるしくみと家計、企業、政府の関係について理解します。</li> <li>日本のビジネスの発展について、国際化、情報化、サービス化、科学技術の進展と関連して理解します。</li> <li>新たなビジネスの創造についても理解を深めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テスト</li> <li>グループ研究及び発表「日本のビジネスの発展」について</li> <li>レポート「商業科3年間の目標」の提出</li> </ul>
6	(3) ビジネスに対する心構え ア 豊かな人間性と創造性 イ 起業家精神と企業経営に関する理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>【中間テスト 月 日( )】 テスト範囲</li> <li>望ましい人間関係、豊かな人間関係と主体性、自己責任の概念、創造的な能力を身につけることの重要性について理解します。</li> <li>起業家精神や企業経営に関する理念やビジネスに対する望ましい考え方について理解します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>p. ~ p.</li> <li>レポート「新たな商品のアイデアの考案」</li> <li>実習「身近な小売商調査」</li> <li>小テスト</li> </ul>
7	3 ビジネスと流通活動 (1) 経済活動と流通 ア 流通の意義と役割  (2) 流通活動の特徴 ア 小売業の業種・業態の変化と流通  (3) 流通活動と企業 ア 企業の経営組織  1学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産・流通・消費という経済の仕組みを通して流通の意義や役割を理解します。</li> <li>生活水準の向上や生産の高度化によって生産と消費の隔たりが大きくなり、流通の役割が大きくなっていることについて理解します。</li> <li>流通の機能を取り上げ、流通活動全体に共通する経済的特徴を、小売業の業種、業態の変化との関わりで理解します。</li> <li>【期末テスト 月 日( )】 テスト範囲</li> <li>企業の形態(種類)について、特徴を理解する。</li> <li>企業という組織がどのように発展してきたかについても理解を深める。</li> <li>テストや授業への取り組みなどについて自己評価を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人研究「生産と消費の隔たり」について</li> <li>調査「小売業の業種、業態」について</li> <li>p. ~ p.</li> <li>株式会社についてのビデオ視聴</li> <li>自己評価票に記入し、1学期を振り返ります。</li> </ul>

国際化に対応するために、毎時間5分程度、英語によるコミュニケーションを実施します。

